



# 展示紹介

Vol. 1

2010.7.15

## 初の災害救護活動～磐梯山噴火

1888年（明治21年）7月15日、福島県の磐梯山が噴火し、麓の村落の住民500人以上が死傷しました。戦時を想定した当時の日本赤十字社社則には、自然災害時の活動の規定はありませんでしたが、皇后陛下(昭憲皇太后)から、救護班を派遣したらよかろうとの内旨(内々の沙汰)がありました。

7月21日に現地に入った救護員はのべ15人で、地元の医療関係者と協力してのべ105人の患者に手当てを施しました。



### 磐梯山噴火と三上剛太郎

この災害での日本赤十字社の活動を東京で広く伝えたのが、読売新聞の社会部記者で青森県佐井村出身の三上剛太郎でした。三上はその後家業の医業を継ぐため新聞社を退社し、日露戦争に軍医として従軍しました。

コサック兵に包囲された野戦病院に負傷者を保護するため、急造の赤十字旗を掲げた逸話は有名です。

三上が赤十字への認識を深めたのは、磐梯山噴火での日赤の活躍だったといわれています。



三上剛太郎 手製の赤十字旗の逸話については、下記の日本赤十字社青森県支部ホームページをご参照ください。

<http://www.aomori.jrc.or.jp/mikami00.html>